

視 察 報 告 書

平成 22 年 7 月 12 日 (月)

佐賀県武雄市 武雄市役所

武雄市の概要 平成 18 年 3 月隣接の山内町・北方町と新設合併し現武雄市が誕生

平成 21 年 人口 51,558 人 17,036 世帯

産業別構成 第一次産業 9,7%第二次産業 28,9%第三次産業 61,4%

武雄市議会議員数 26 名

武雄市の行政機構の名称がユニーク

営業部の中に「わたしたちの新幹線課」特産品課に「地域ブランド係」「いのしし課」観光課に「九州物語係」「佐賀のがばいばあちゃん課」また、くらし部には「たっしゃか係」がある。

こどもの窓口はこども部「未来課・支援課・食育課」で対応、食育課に「楽しい食卓係」があり地域性を生かした取り組みがなされている。

「五感を使った食育体験プログラム推進事業」について

1) 事業の概要・経緯について

「経緯」平成 19.4 こども部食育課設置

平成 19.9 武雄市食育推進計画ワークショップの開催・飲食店農家 34 名参加

*食育体験プログラムの提案・・外部委託

平成 20.3 がばいよか武雄の食育推進計画策定

平成 20.5 たけおの食育寺子屋実行委員会設置

平成 20～ 五感を使った食育体験プログラム業務委託

「概要」……親子の体験型プログラム

子供たちが心身ともに健やかに育ち豊かな人間性を育むためには、様々な体験を積み重ねていくことが必要で、そのため、普段なにげなく使っている 5 つの感覚（みる・きく・さわる・かぐ・あじわう）を使って、武雄ならではの食を楽しむ体験型の「五感を使った食育プログラム」が実施されている。テーマは……

- (1) 「野菜パワーで元気 100%」つくって食べようおいしい野菜
- (2) 作って、食べよう！人参おやつ ～ニンジン嫌いゼロ大作戦～
- (3) だご（だんご）を訪ねて食文化を知ろう
- (4) 食から学ぶ、もったいないキャンプ
- (5) みんなでつくる楽しいやしゃ鍋（野菜鍋）「わっはっは！」
- (6) わんとしゃー（碗とおかず）

「事業費（H21）」

食育体験プログラムの研究・開発及びモデル事業実施委託料 310 千円

教育ファーム事業推進事業「モデル実証地区」（農林水産省） 329 千円

（調理実習等における食材については、受益者負担金を徴収されている）

2) 具体的な取り組み内容について

(1) 「野菜パワーで元気100%」つくって食べようおいしい野菜

小学生の家族 16 組、50 名参加 5 月 9 日開校・種まきから管理・夏野菜収穫と感謝祭で採りたての野菜料理のバイキング・10 月にさつまいもの収穫・子供たちの観察を壁新聞で発表・12 月大豆収穫・1 月 30 日閉校式でみそ汁を作るなど実施された。

(2) 作って、食べよう！人参おやつ ～ニンジン嫌いゼロ大作戦～

山内中学校 1 年 3 組が「畑の土」にこだわった野菜づくりに挑戦。土づくりを行い、無農薬、無化学肥料によるニンジン栽培。ニンジンを使った朝食目ニューを開発。

学校給食メニューや市内飲食店期間限定メニューに紹介された。

(3) だご（だんご）を訪ねて食文化を知ろう

「残しておきたい昔おやつ（家庭のおやつ）」をキーワードに、簡単にできるおやつの調査、子供たちに食べてほしい料理を記録し継承していく。8 品目メニュー。

(4) 食から学ぶ、もったいないキャンプ

子どもたちが公民館に寝泊りし、自分たちで食事の用意や掃除をして学校へ通う。

2 泊 3 日の間バランスの良い食事について学び、野菜の収穫と調理を行なった。

(5) みんなでつくる楽しいやしゃ鍋（野菜鍋）「わっはっは！」小学生家族対象

楽しい食卓絵コンクール・楽しい食卓づくりの定着・・・999 点応募（幼・小・中学）

親子クッキング教室、やしゃカレーの日、お魚丸ごとの日、大豆の日（豆腐鍋とみそづくり）を体験学習するほか、野菜の産地見学会の実施もされた。

(6) わんとしゃ（碗とおかず）・・・食と器・・・小学生保護者対象

器と食事を陶器づくり体験や食事の楽しさを食育講和や和懐石の昼食会、武雄焼の窯元めぐり（3 箇所）など器を中心とした食育教室や見学会の開催。

第 2 回たけおの食育まつり

地産地消の仕事人による事例発表や食育講演会、親子で楽しめる体験型食育コーナーの設置など平成 22 年 2 月 13 日（土）に開催された。

3) 地域団体や保護者・子どもの反応について

食育寺子屋実行委員会からは他団体と連携することで活動の幅が広がった。

教育ファーム、野菜の産地見学会地産地消の講座を行なったことで、「野菜の購入時産地の確認や旬を意識するようになった」食生活・栄養講座にて望ましい食生活の、知識を深めることができた。調理にかける手間の大切さ認識し、家族でのふれあいや、食育の大切さに気付いていただくことができた。

4) 事業の成果・評価について

家庭、学校、地域が連携し食育体験プログラムを作成し、子供と保護者に様々な体験活動の機会を提供したことで、食事への関心が高まり、食事の価値（食卓＝食育）を見直し家族の連帯感が強まり、それぞれの家族にあった食育のあり方に気付いていただくことに貢献できたとしている。

5) 今後の課題や事業展開について

平成 20 年度から毎月第 3 金曜日を「たけおの食育の日」を設定し、武雄市食育推進計画が平成 22 年度までとなっていることから、プログラムの総点検が予定されている。

食育は、家庭の中で培うものであり、偏った食事をする、食事を取らないといった問題も発生していることから、今後引き続き親子を対象とした食育を推進する必要がある。

以上が視察項目における内容である。

所感

武雄市の樋渡啓祐市長は、平成 18 年全国最年少市長として登場、市民病院問題勃発・リコール・辞職・選挙など問題を多く抱え、暴走特急と呼ばれ、次々に新聞やテレビ出演をされるなど、一期目からマスコミで話題を巻き起こした人である。

市政運営には市役所の行政機構図に表れており、ユニークな部・課・係が設置され、係の名称については職員に任せているということである。市長の言葉を借りれば目立つことが大切で、橋下大阪府知事や長崎県知事とも人事交流を進めている。

市長自らが説明していただき、アイデアいっぱいの行動派で、職員給与についても勤務評定するという発言もあった。

地産地消を主体とする食育推進計画は、武雄市ならではの地域にあった取り組みとして、食育の大切さを市民と取り組まれており、公設地方卸売市場を運営する大津市にとっても大いに参考となるのではないかと考えている。

なんでも他より最初にやるのが大切で「うまく行かないなら撤退する・楽しくやる・街づくり」の 3 原則と仰っていた事が心に残った。

又、戸別訪問が得意で、おじいちゃん、おばあちゃんの提言により出来たのが「いのしし課」、そして「育メン（男）手当て」を考え中、「おむすび課」も 3 年以内を目途に、話題を取り込むと意気込みを見せておられた。

がばいばあちゃん効果は、武雄温泉の化粧水を 4 万本売り上げ、がばいばあちゃんず「GABBA」は、上海万博での X ジャパンの前座出演予定や、新潟・福岡と広く活動中である。

その効果もあり、武雄温泉をはじめ観光客も増加中との事である。大津市も起爆剤になる観光大使に変わる何かを、模索できれば良いのだがと考えさせられた。

(中野 治郎)